

## <今朝の聖書から>

大石 操

『コレハトの言葉』ヘブル語で(コーヘレス)という題名で呼ばれているところです。「説教者」、「伝道者」という意味です。1月22日の主日礼拝では、11章1~8節が開かれ「パンを水の上に」という説教題で村上牧師からメッセージをして頂きました。今朝は、7章1~14節を開いて共に学んでみましょう。

(幸福とは何か) 6章12節で「短く空しい人生の日々を、影のように過ごす人間にとって、幸福とは何かを誰か知ろう。その一生の後はどうなるのかを教えてください。太陽の下にはない。」と伝道者は言っています。その答えのいくつかが与えられています。7章を読みましょう。前半にはその時代の格言が集められています。

(死ぬ日は生まれる日にまさる) 1節。私たちは、死という問題を避けて真面目に取りくむことを嫌います。しかしここでは、人間は死の問題をまじめに考えることで人生をより意義のあるものとすると言っています。

(事の終わりは初めにまさる) 8節。(昔の方がよかったのはなぜだろうかと言うな) 10節を見ましょう。私たちはよく「昔はよかったね」と会話がはずむ時があります。懐かしむのは良いことですが「どうして昔の方が今より良かったのか」と現状だけを見て判断してしまい失望しがちです。伝道者は(事の終わり)にその良し悪しが明らかになるのだから、事の結果を見るまでは忍耐すべきで、心をいらだたせない方が良いと戒めています。もっと良いことを神が備えて下さっているのに、私たちは実に短気で速断しているのに気がつきます。

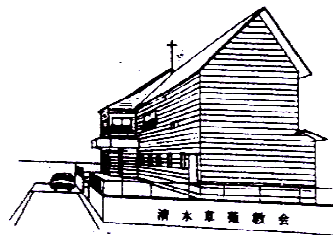
(神の御業を見よ) 13節~14節で伝道者は、私たちの人生は神様の御手の中にあり、すべてが神様の御業であると言っています。順境の日には素直に喜んだらよい。逆境の日には失望しないで反省すればよい。なぜなら、それらは神様がお与えになるからです。それにも理由があります。順境の日だけなら、私たちは反省することを忘れて高慢になり、神様をないがしろにしてしまいます。また逆境の日だけなら、私たちは喜びと希望を失い失意に沈みこんで、神様を忘れてしまうからです。いつも神様は、私たちの弱さを知っていて下さり『神様の御業に目を止めさせる』ようにして下さい。

『コレハトの言葉』の内容は「空」むなしさが強調されています。しかしそれは、神様から離れた人生を送ることは空しく満たされることがない「不幸」ということです。

聖書に書いてあります。『主を信じる者は、だれも失望に終わることがない』ローマ10:11

# 週報

2012年 2月 26日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042